

自己評価の基準：【A】十分達成できた【B】おおむね達成できた

【C】あまり達成できなかった【D】まったく達成できなかった

1 教育活動への取組	自己評価
<p>【学習指導】</p> <p>【目標】「質の高い授業の創造」と「教科マネジメント」の充実を図る。</p> <p>【方策】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 生徒・教員間及び生徒間のやりとりを通して考えさせ、表現させる授業を実践する。 ② 集団で学び、新たな気づきや発見のある授業場面を通して、自ら学びに向かう生徒を育てる。 ③ 当該学年の教科チームとして生徒の成績推移や実態を把握し、それを踏まえた日常の補習や長期休業日中の講習を実施する。 ④ 教務部の適切な進行管理のもとに、生徒による授業評価結果を教科として分析し、学校として生徒へ文書でフィードバックする。生徒と教員とでよりよい授業づくりを目指す。 ⑤ 教科主任会での検討を踏まえ、土曜講習を組織的・計画的に実施し、基礎・基本の徹底及び発展・応用の充実を図る。 ⑥ 5～6教科7科目型の大学入試センター試験及び4教科6科目型の国公立二次試験に対応できる教育課程を継続実施する。 ⑦ 「課題・補習・面談」を通して基本的な学力の維持・向上を図る。 ⑧ 理数探究の具体的な内容・方法等について検討し、指導体制を明確にする。 ⑨ 大学入学希望者学力評価テストを見据えた全国公立進学校との共同研究を継続実施する。 	<p>【学習指導】</p> <p>質の高い授業を創造するために、</p> <ol style="list-style-type: none"> ア 教員個々及び教科としての研究（通年） イ 管理職による授業観察と面談（年2回） ウ 校長が指名した4名の教員の授業参観と研究協議（11月） <p>を実施した。また、東部学校経営支援センターの「レインボープラン」に協力し、授業公開と研究協議を行った。さらに、全科目において定期考査問題の共通化を完成させた。【B】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 授業における「やりとり」を通して考えさせる授業づくりは、すべての科目において実践された。国語と英語においては、生徒の表現を多く取り入れた新たな授業実践が行われた。 ② 授業を契機として自ら学びに向かう生徒は多い。家庭学習時間が平日3時間以上の生徒割合は前年度と比較して2学年以外は増加。（3年64%⇒74%、2年16%⇒13%、1年8%⇒12%）。 ③ 教科チームとして教材の共有化や情報交換を進め、授業担当者による差異が出ないように努めた。生徒個別の成績データベースを全員で共有し、年2回の進学指導検討会及び夏季休業日前の拡大進路部会で生徒情報の共有を図った。それに基づく補習等は各教科で実施。長期休業日中の講習も生徒が取りやすいように組織的に講座設定した。 ④ 教科として授業評価結果の分析コメントを作成し、評価結果のデータとともに全校配布した。 ⑤ 土曜講習は1, 2学年とも国語・数学・英語については発展及び標準講座を設定した。 ⑥ センター試験5教科以上の出願者は310名、96.9%、難関国立4大学及び国公立医学部医学科二次試験の受験予定者は226名、69.5%であった。（12月末時点） ⑦ 課題の提出について繰り返し指導するとともに、定期考査・小テストの実施後に基準に到達しない生徒へのきめ細かな補習を実施した。さらに担任による年4回の面談によって学習への意識を高める働きかけを行った。 ⑧ 理数探究プロジェクトチームによる検討を進め、指導内容・体制、ルーブリック評価について整備した。 ⑨ 本校での生活において求められる思考力が伸長している結果を得ることができた。

【生活指導・健康づくり】

【目標】「生徒に寄り添い、生徒と向き合う指導」から自律した生徒を育成する。

【方策】

- ① 進学校としてけじめ・メリハリのある授業規律・生活規律を確立するため、全教職員で生活指導にあたる。
- ② 全校集会・学年集会やホームルームを通して、望ましい学校生活について生徒に考えさせる指導をするとともに、家庭及びPTAとの連携を図る。
- ③ スクールカウンセラーを活用し、生徒の心のケアなど、教育相談機能の充実を図る。
- ④ 生活指導部、保健部、学年と経営企画室とが連携したタイムリーな環境整備を行う。（来校者の視点での環境整備）

【進路指導】

【目標】「現役での生徒の進路希望の実現」を果たす。

【方策】

- ① 学年集会、個人面談等を活用し、最後まであきらめさせない指導を継続する。
- ② データベース等により生徒情報を共有し、担任・教科担任・部活動顧問等があらゆる場面で生徒を励ます指導を行う。
- ③ 進路指導部と学年とが連携し、生徒の第一志望実現へ向けた進路指導対策を立て、現役合格を達成する。
- ④ 年2回の進学指導検討会後に、進路指導部・5教科主任会を開催し、具体的な学習指導対策を検討・実施する。
- ⑤ 実力テストの実施にあたって、作問レベルの事前確認、予想平均点の設定を行い、実施後の状況について全教職員で共有する。
- ⑥ 第3学年生徒の成績データに基づいたケース会議を年2回実施し、出願指導等で活用する。

【生活指導・健康づくり】

あいさつ、時間管理、身だしなみ、授業規律などについて個々の教員からの声かけや投げかけなどを実施し、また学年集会を活用して自律的な生活の確立へ向けた働きかけを行った。時間管理について課題となる生徒はごく少数であった。SNSの適切な使用について継続指導していく必要がある。**【B】**

- ① チャイムと同時に授業開始など、当たり前に行っている。今後も授業準備の事前徹底、鞆類を整理して机間通路の確保、机上整理など、より望ましい学習姿勢を全校で確立していく。
- ② ホームルームや学年・全校集会等を通して生徒に考えさせる取組を実施した。保護者会やPTA運営委員会でも協力を依頼し、一体感のある指導に努めた。
- ③ 意識調査実施後に、スクールカウンセラーによる面談につなげるなど、教育相談機能を充実させた。
- ④ 学校見学会、学校説明会等、多くの来客がある場合の環境整備はできている。日常的に全国及び海外から来客があるので、廊下・階段の環境整備が恒常的にできているようにすることが課題。

【進路指導】

現役進学率は63.5%であった。（前年度54%）高い進路希望を実現させていくために、今年度の受験結果の検証を進めて、次年度以降の指導へ生かしていく。今年度も生徒の成績データベースを基に、志望大学別のケース会議を実施し、3学年担任団と進路指導主任、教科担当者、管理職との目線合わせを行った。センター試験では、193名が総合得点率80%に達するなど、過去6年間で最高の成績を修めた。**【A】**

- ① あらゆる場面を通して、あきらめさせない指導を貫いた。
- ② データベース化した既卒生及び在校生の情報を全教員で共有し、それぞれの立場で励ましの指導を行った。
- ③ 学年集会、進路講演会、出願検討会など、進路指導部と学年とが連携し、目線合わせを十分に行って指導にあたることができた。現役合格率は更なる向上を目指す。
- ④ 改善策の策定に向けて5教科主任会を開催し、2学年の生徒に対する地歴公民・理科の11月以降の取組を具体的に提示した。
- ⑤ 実力テストの作問レベルは事前に教科内で共通理解を図った。予想平均点・実際の平均点を比較し分析も行った。全教科の状況を全員で共有した。
- ⑥ 11月及び1月にケース会議を実施し、出願指導に活用した。

<p>【特別活動】 【目標】 「文武両道」を奨励し、生徒の帰属意識を高める。 【方策】 ① 新入生への部活動参加を奨励する。 ② 体育大会、合唱祭、星陵祭を通して、全校生徒の達成感や達成感を高める。 ③ 生徒会活動・委員会活動を支援し、生徒自身の自主的・自律的な活動を充実させる。 ④ S S H事業及びG10 事業を安全かつ円滑に実施し、生徒の高い満足度を得る。</p> <p>【募集・広報活動】 【目標】 「入学者選抜における応募倍率の維持・向上」 【方策】 ① 学校見学会・説明会・授業公開等を通して、本校を理解した生徒・保護者に選んでいただく。 ② 生徒の活躍（学習、学校行事、部活動など）をタイムリーに学校ホームページへ掲載する。 ③ 各分掌が所管するホームページの内容をより自主的に更新・情報発信していく。 ④ 小学生とその保護者を対象とした学校説明会をより一層充実させる。</p> <p>【学校経営・組織体制】 【目標】 「迅速な情報共有と知恵の結集で改善を」 【方策】 ① 企画調整会議と分掌部会との双方向性を維持する。 ② TAIMS 端末やNAS（校内ネットワーク）を有効活用して、迅速・確実な情報共有を行う。 ③ 学校経営計画に基づき、各分掌が組織目標の設定、中間総括、年度末総括を実施する。</p>	<p>【特別活動】 文武両道の伝統は確実に継承され、生徒の入学満足度も91%であった。【A】 ① 担任等から部活動加入を奨励し多くの新入生が加入した。 ② 学校行事への生徒肯定割合も87%と高く、目的はほぼ達成されている。（昨年度88%） ③ 生徒会活動や委員会活動は、顧問の支援の下でより活性化させることができた。生徒会・委員会による通信の発行など生徒たちの自主的・自律的活動が継続した。 ④ S S H成果報告会では、生徒の自主探究活動の質の向上が確認できた。参加生徒の満足度も高かった。（生徒肯定割合100%） ⑤ ポストン・ニューヨーク研修も昨年に引き続き、一定の成果をあげ、参加生徒の満足度も高かった。（生徒肯定割合100%）</p> <p>【募集・広報活動】 推薦に基づく選抜の応募倍率は男子が2.76倍、女子が4.00倍とやや減少。学力検査に基づく選抜の応募倍率も男子が2.37倍、女子が1.99倍とやや減少した。【C】 ① 各種活動を通して本校の教育理念・活動を紹介し、それに共感する中学生・保護者に選択していただくことができた。 ② 「日比谷生の活躍」欄を活用し、生徒の活躍をタイムリーに掲載した。 ③ 総務部において自主的な更新が継続した。 ④ 8月に小学生とその保護者対象の説明会を実施した。参加人数は増加し、内容も好評であった。</p> <p>【学校経営・組織体制】 情報は全員で共有することを大前提として、紙ベース、電子データ等で適宜閲覧できるようにした。【B】 ① 分掌部会で協議して意見聴取する案件が複数あった。企画調整会議の内容伝達は、一部の分掌で円滑でなかったが、改善された。 ② NASによる情報共有に加えて、TAIMS 個人端末や成績処理ファイル Fogosによる情報共有を継続させた。 ③ 各分掌の年間組織目標、中間総括、年度末総括は主任主導で実施した。</p>
<p>2 重点目標への取組</p>	<p>自己評価</p>
<p>【学習指導】 【目標】 生徒と教員とで質の高い授業づくり 【方策】 ① 授業研究と授業改善（個々の取組及び教科としての取組）の継続実施 ② 教務部が主体となり、生徒による授業評価結果</p>	<p>【学習指導】 授業評価結果を学校としてフィードバックすることは継続できた。定期考査問題の完全共通化が実現した。 【B】 ① 個々の教員の取組に加えて、教科としての授業研究や改善を深めていくことが更に求められる。</p>

<p>を学校全体としてフィードバック（第1回は前期終業式までに全校配布）</p> <p>③ 授業に関する校内研修会の実施（授業の見せ合いと話し合いの実施）</p> <p>④ 教科マネジメントの確立へ向け、授業内容・授業進度・考查問題の共通化をより完成させる。（倫理）</p> <p>⑤ 今年度をもって、すべての教科・科目において、教科書レベルの授業内容を3年生11月までに終了させる。</p> <p>【数値目標】学習指導に対する生徒肯定割合 82%以上（前年度 81%） 授業の見せ合いの参加率 100%（前年度 100%）</p> <p>【生活指導・健康づくり】 【目標】全教職員が一致して生徒と向き合う指導 【方策】</p> <p>① 学年集会や全校集会を活用し、生徒の意識や自覚を高めるための全教職員による一致した指導の実践（リーダーとしてふさわしい身だしなみ、時間・私物・貴重品管理に重点）</p> <p>② 必要に応じてケース会議を開催し、心のケア等について迅速に情報共有するとともに、的確に対応する。</p> <p>③ 学校見学会・学校説明会・入学相談会など、来校者の視点に立って、前日までの校内点検を徹底し整備を行う。</p> <p>【進路指導】 【目標】生徒の希望進路の実現 【方策】</p> <p>① 根拠となるデータに基づいた生徒への励ましの指導を実施</p> <p>② 生徒の高い志を堅持させ、第一志望を貫けるように支援する。</p> <p>【数値目標】（ ）内は前年度の人数、達成率</p> <p>① 難関4国立大学及び国公立医学部医学科の現役合格者 70人以上（56人）</p> <p>② 難関3私立大学の現役合格者 230人以上（203人）</p> <p>③ 国公立大学の現役合格者 100人以上（100人）</p> <p>④ 大学入試センター試験5教科の総合得点率 80%以上の人数 160人以上（152人）</p> <p>⑤ 大学現役進学率 60%程度を維持（54%）</p> <p>【特別活動】 【目標】文武両道を追求する生徒の育成</p>	<p>② 予定通り実施した。</p> <p>③ 校内研修を継続実施し、授業の見せ合いの実施率も100%となった。研究協議も活発であった。</p> <p>④ 考查問題の共通化については、すべて100%を達成した。</p> <p>⑤ すべての授業において、教科書レベルの内容を3年生11月までに終了させた。</p> <p>【数値目標】学習指導に対する生徒肯定割合 82%と達成。（昨年度 81%） 授業の見せ合いの参加率 100%（昨年度 100%）</p> <p>【生活指導・健康づくり】 時間管理や身だしなみ等について課題意識を共有して指導にあたった。教員からの適切な投げかけを通して、自律的な生活態度を育成していくことは今後も必要である。【B】</p> <p>① 授業等において生徒への投げかけや声かけを「する・しない・できる・できない」についてまだ教員間の温度差はある。</p> <p>② 保健部会の中で必要な情報共有をして対応した。</p> <p>③ 生徒と教職員とで力を発揮して、日常的な整備が徹底できるようにする必要がある。</p> <p>【進路指導】 難関国立4大学及び国公立医学部医学科の現役受験者数は226名と高い志望状況であった。東京大学の合格者数は全国の公立高校の中で5年連続1位の実績であった。【B】</p> <p>① ②データベースを活用して3学年生徒全員のケース会議を実施。高い志望を貫くことができるように支援した。</p> <p>【数値目標】（4月5日現在）</p> <p>① 難関4国立大学（東京・東工・一橋・京都）及び国公立医学部医学科の現役合格者 66人（達成率 94.3%）</p> <p>② 難関3私立大学（慶応・早稲田・上智）の現役合格者 197人（達成率 85.6%）</p> <p>③ 国公立大学の現役合格者 136人（達成率 136%）</p> <p>④ 大学入試センター試験5教科の総合得点率 80%以上の人数 193人（達成率 120%）</p> <p>⑤ 大学現役進学率は 63.5%（達成率 106%）</p> <p>【特別活動】 学習とともに三人行事、部活動、生徒会活動、委員会</p>
---	---

<p>【方策】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 部活動の加入奨励 ② 各行事における生徒会や実行委員会生徒の育成 ③ 全校集会等における生徒会役員及び委員会からの連絡場面の設定 ④ 行事準備時間と部活動時間との割り振りを適切に行い、効果的・効率的な運営を行う。 <p>【数値目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 部活動加入率 95%以上（前年度 94%） ② 学校行事の充実度 生徒肯定割合 89%以上（前年度 88%） <p>【募集・広報活動】</p> <p>【目標】 本校を理解した生徒の獲得</p> <p>【方策】 教職員と生徒が一体となった丁寧で効果的なPR活動の継続</p> <p>【学校経営・組織体制】</p> <p>【目標】 PDCAマネジメントサイクルの実働化</p> <p>【方策】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 分掌部会における主任からの報告、資料回覧、TAIMS送信等により、企画調整会議の内容を確実に伝達する。 ② 意見聴取事項については、分掌主任が部会での検討結果を企画調整会議で報告する。 ③ 教職員の自己申告における目標設定が、学校経営計画及び分掌組織目標を踏まえたものとなるようにする。 ④ すべての校務分掌（7部署）が、学校経営計画に基づく年間組織目標を設定し、中間総括及び年度末総括を実施するとともに、公開する。 	<p>活動などに取り組む生徒がほとんどであった。【A】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 年度当初の各機会において部活動加入を奨励。 ② 生徒会による対面式、部活動紹介のほか、各実行委員会生徒が主体的に活動した。 ③ 全校集会では生徒会役員又は委員会委員長からの連絡場面が設定された。 ④ 割り振りが不明確な行事もあったが、概ね効果的・効率的に実施できた。 <p>【数値目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 部活動加入率 95.6%と達成 ② 学校行事への生徒肯定割合 87%と未達成 <p>【募集・広報活動】</p> <p>授業公開、学校見学会、学校説明会などを適宜適切に実施し、本校の教育理念や教育活動に共感する中学生・保護者に選択をしていただいた。応募倍率は微減した。【B】</p> <p>【学校経営・組織体制】</p> <p>学校経営計画に基づく各分掌のマネジメントサイクルが主任を中心に整備できた。【B】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 企画調整会議の内容伝達は、一時期一部の分掌で課題があったが、概ね円滑であった。 ② 意見聴取事項は適切に対応した。 ③ 引き続き、教職員の目標設定を検証可能なより具体的なものへとしていくことが必要。 ④ 予定通りに実施した。
<p>3 次年度以降の課題</p>	<p>対応策</p>
<p>【教科マネジメントの確立】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 生徒の変化に対応するため、2学年後期から地歴公民及び理科の自主的な学びへ向けた働きかけを継続させる。 ② 新たな大学入試制度を見据え、全国公立進学校との共同研究を継続実施する。3年生で実施する英語検定について確定する。 <p>【生徒の高い進路希望の実現】</p> <ol style="list-style-type: none"> ③ センター試験の結果を踏まえ、教科を横断した授業・課題・講習等の在り方について引き続き検討し、成果へとつなげる。（強みを生かし、弱みを克服する） ④ 「一日の中の文武両道」を貫くなかで、現役での進路希望の実現を果たせるように支援する。 ⑤ e-ポートフォリオを導入し、指導に活用する。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 前年度の働きかけについての検証をした上で、2学年後期以降の具体的な働きかけとその実施について、発展・継続させる。 ② 全学年生徒を対象に調査・研究を実施し、新たな大学入試に対応できる思考力を身に付けるために必要な教科指導の在り方を継続検討する。 ③ センター試験における得点率 80%を一つの指標として、教科・科目の強みを継続し、弱みを前進させる取組について更に検討を進める。 ④ 1学年から課題・補習・面談によるきめ細かい指導を継続し、生徒の意識を高くもたせる。2学年では模試の目標設定をしながら、高い意識を維持させる。3学年におけるデータベースを活用した年2回のケース会議を継続し、一人一人の希望の実現を支援する。

<p>【周年行事】</p> <p>⑥ 平成30年10月に実施する「創立140周年記念行事」を成功させ、生徒・教職員・関係者で次なる10年へ向けた想いを共有する契機とする。</p>	<p>⑤ 民間企業との共同研究を進め、生徒が伸びる要因等について分析・検討を行う。</p> <p>⑥ 既存の分掌を活用した具体的な準備を進め、PTA・如蘭会・星陵会とも連携する。</p>
--	---